

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 紙 谷 博 子

論 文 題 目

Development and validation of a new quality of life scale for patients receiving home-based medical care: The Observational Study of Nagoya Elderly with Home Medical Care

(在宅医療を受ける高齢者の生活の質 quality of life 評価票の開発と妥当性検証 : 名古屋近郊の在宅医療受療高齢者の観察研究から)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

濱嶋信之 

名古屋大学教授

委員

植村和正 


名古屋大学教授

委員

伴信太郎 

名古屋大学教授

指導教授

葛谷雅文 

## 論文審査の結果の要旨





今回、在宅医療を受ける高齢者の生活の質 quality of life を評価する評価票 QOL-HC (QOL for patients receiving professional home care) を作成した。在宅医療患者は多様な背景疾患をもち、自立度や認知症、嚥下機能などの身体状況によって QOL は異なるため、それらに関係なく QOL を評価できることが必要であると考え、年齢、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度、嚥下機能、聴力、コミュニケーション力を変数として偏相関係数を用い、4 つの質問項目を抽出した。4 項目からなる評価票のクロンバック  $\alpha$  係数は 0.7 であり、SF-8™ の精神的サマリースコアとの相関をみとめたことから、信頼性および外的妥当性を確認した。今後の在宅医療受療高齢者の QOL 研究に活用できる可能性がある。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 因子分析は尺度の妥当性検証において項目間の相関を説明するのに有効な手法であり、2 つ以上の因子に負荷する項目や、どの因子にも負荷しない項目を抽出することができる。しかし、今回のサンプルにおける因子分析で抽出された因子構造は解釈しにくいものであった。このような因子の不安定さの理由は、いくつかの変数の互いの相関が弱く独自性が強いこと、サンプルサイズが小さいこと、異なる患者背景が異なる因子構造をもつ事等と考えた。
2. QOL は多面的な構造であり、質問票には多くの次元を含めるべきだとされているが、あらゆる概念を同時に一つの質問票で評価することは現実的でなく、先行する QOL 測定尺度の多くは身体・情緒・社会機能から構成されることがほとんどである。治癒の望めない慢性疾患患者においては身体・社会機能よりも、情緒面の状況が重要であり、特に在宅療養高齢者の QOL 評価には、療養環境、介護環境に焦点をあてた要素を含むことは妥当と考える。同様に、不安、抑うつ、疲労感などの QOL の特異的局面に焦点をあてた測定尺度が開発され使用されており、特定の局面のみ評価するものである為、包括的な質問票と一緒に用いるのが一般的である。
3. 治癒や生存期間延長のみでなく QOL の評価を行うことが、多くの臨床試験においても標準となり、治療による QOL 改善または副作用による負の変化が明らかにされる。また、医学的意思決定、治療方針決定の際に QOL 評価を用いることの重要性が報告されている。さらに、QOL を評価する理由の一つには、患者と評価者のコミュニケーションの促進がある。最後に、日本において使用できるものは EQ-5D に限られており QOL 評価方法が課題であるが、医療経済評価の一手法として、生存期間と QOL の両方を考慮した QALY (Quality Adjusted Life years) を用い、様々な薬や医療行為、予防活動についての費用効果分析が可能となる。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	紙谷博子
試験担当者	主査	濱嶋信之 	植村和正 	伴尚輝 
	指導教授	葛谷雅文 		
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 因子分析とその結果について</li> <li>2. QOL評価票を構成する要素について</li> <li>3. QOLを評価する目的と活用について</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、地域在宅医療学・老年科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				